令和４年度事業報告

社会福祉法人六三四

目　　次

令和４年度各事業報告

1、　　本部・・・・・・・・・・・・・・Ｐ2～
地域支援部・・・・・・・・Ｐ7～
2、　　生活リハビリセンター六三四・Ｐ7～
3、　　生活リハビリセンター雅・・・Ｐ10～
4、　　生活リハビリセンター絆・・・Ｐ13～
5、　　デイサービスセンター絆・・・Ｐ16～
生活支援部・・・・・・・・Ｐ17～
6、　　六三四ホーム（青粋・彩）・・　Ｐ17～
7、　　お結び・・・・・・・・・・・・・Ｐ21～
相談支援部・・・・・・・・・Ｐ24～
8、　　スカイサポートセンター・・・Ｐ24～
収益事業・・・・・・・・・・Ｐ26～
9、　　不動産賃貸業・・・・・・・・・Ｐ26～

【令和４年度　社会福祉法人六三四　本部事業報告】

＜重要課題・課題に対する取り組み＞

重点課題の明確化

１、感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策

１，国通知等、各事業所及び職員への周知徹底

２，全利用者職員の手洗い・うがい・検温・消毒の徹底

３，来訪者の来訪記録及び検温・消毒の徹底

４，ワクチン接種の取り組み

５，その他の感染防止対策の実施

インフルエンザウイルス対策

１，国通知等、各事業所及び職員への周知徹底

２，ワクチン接種の取り組み

成果と課題

① 毎月、ＰＣＲ定期検査の実施、発熱者や濃厚接触の可能性があるたび抗原検査の実施と関係各所への連絡対応に追われた一年であった。また、活動の自粛等施設判断に委ねられる事も多く各事業所では可能な限り活動を実施してきた。

② 令和４年７月１５日生活リハビリセンター雅にて利用者及び職員１４名未検査２名の感染を確認し、１０日間事業所を閉所。生活リハビリセンター絆では令和４年７月２９日利用者及び職員２０名未検査３名１０日間の閉所、令和４年９月１２日利用者２名の感染、青粋ケアホームでは１名の感染を確認し都度行政及び各ご家族対応を実施したところである。引き続き、柔軟かつ速やかなる初動も含めシミュレーション訓練を実施する。

２、送迎業務リスクマネジメント

重点課題の明確化

１，安全運転と車両管理の徹底

２，アルコールチェッカーの導入

３，安全運転のチラシの配布

成果と課題

① 自損事故等、その都度運転手に対して安全運転管理者より面談及び定期的な講習の実施をした。また、アルコールチェッカーも運転手一人につき一台を準備して令和４年９月より朝、夕の２回検査を実施している現状であり、引き続き継続していく。

３、施設整備計画

重点課題の明確化

１，特別支援学校等卒後の進路について、小平市及び近隣の地域にとって深刻な影響が出ている状況である事もふまえつつ、受け入れていく方向で調整を図ったところであるが臨時的措置に過ぎない状況であり今後も、安定的且つ継続的に受入れを実施できるように情報共有を行いながら事業を進めていく。

２，地域生活支援拠点事業の推進を図る上で更なる拠点の充実が必要であり新規事業計画の検討及び具現化への立案が必要である。

成果と課題

① 東大和市内に新規生活介護事業の創設を進めている状況である。令和５年１０月頃には竣工予定ではあるが、引き続き関係各所と連携を図りながら計画を履行していく。

② 施設整備に係る資金の創出については、法人本部にて施設整備のための積み立てを実施。今後も、適正な借入限度額を顧問税理士指導の下で計画をして調達を図るとともに、施設整備費補助及び障害者通所施設等整備費補助金を有効活用していく。

４、管理職育成計画

重点課題の明確化

１，OJT・OFFJT 及びコンプライアンスの周知徹底

２，ニーズ実現に向けたプロセスと構築及び分析

成果と課題

① サービスの質の向上を目指し、職員への適正指導や広い視野で物事の見極めが重要となってくるため、管理職向け研修等を実施し、その都度自覚と責任、そして緊張感をもって業務に就くことの再徹底と、コンプライアンス及びガバナンス強化を図るほか、理念・方針・戦略を理解して多角的な視野をもって主体的に行動し、目標を計画的に達成する力を徐々につけてきている。内部研修及び外部研修に積極的に参加し、知識の向上を図ったほか、職務範囲と職責を意識して、問題解決・業務遂行能力を高め、組織を活性化する必要がある。

② 利用者家族ニーズの実現に向け、幅広く対応がとれるようにフォーマル・インフォーマルも含めた洗い出し作業と、家族も含めた包括的な支援体制のブラッシュアップを行う。また、引き続き地域ニーズの把握や分析を行い、活性化を目指すほか大きな目的として、地域への理解啓発多職種連携をテーマに掲げて連携強化を図ってきたところであるが、コロナ禍の中で関係性が希薄になりつつあり引き続き、精力的に進めていくことが必要である。

５、職員育成計画

重要課題・課題に対する取り組み

１，職員全体研修会・職員育成会議・プリセプター制度の活用

令和４年度の取り組み

職員の知識や技術の向上を図るため、全事業所の職員を対象とした研修会を継続的に実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、感染状況を見極めて開催した。

① 日　時　令和４年６月１７日（金）
テーマ　記録の書き方について
講　師　生活リハビリセンター絆　河合施設長
日　時：令和４年１０月２８日（金）
テーマ：特別支援学校の進路指導を通じて見えるもの　－本人の思い、親の願い
講　師：スカイサポート　中井職員
日　時：令和５年２月２４日（金）
テーマ：令和４年度虐待防止研修
担　当：山口　建

サービス提供記録表の重要性を認識し、グループワークを通して適切な記録のためには情報収集や情報共有が必要であることを理解し、記録が支援の質の向上につながっていくことを学んだほか、特別支援学校の進路に通じるプロセス、直近の虐待防止における基本的理念や法律、基礎的知識の習得を意識した学習となった。

② 職員育成会議の活用

令和４年度、0JT 教育において事業所全体で取り組む必要性を意識できるようになった。新規職員や後輩職員の育成について考えるとともに、会議に出席している管理職をはじめとする常勤職員が、自身の立場を自覚し、自己研鑽に努め、強い責任感を持って携わることを引き続き求めていく。また、会議に出席している常勤職員それぞれが、自身の職責を正しく認識し、法人の理念を理解して行動していけるよう意識の統一化を図る会議体として活用する。

③ プリセプター制度の活用

プリセプター制度の導入において、事業所ごとに進み具合にばらつきが見られていたが、醸成することに自分たちの役割や意識に若干の変化がみられるようになった。引き続き、新規職員の指導を引き受けることができる職員を見出し、早急に育成する必要がある。中堅職員がスムーズに新規職員の指導・教育を担当できるよう、リーダー層の統率のもと取り組みを進めている。新規職員のサポートを通して職員全員がスキルアップすることを狙い、結束力を高め組織強化を図る。

６、職員採用計画

重要課題・課題に対する取り組み

１，無料・有料媒体の活用と分析

令和４年度の取り組み

１，新たな求人媒体等比較検討しつつ情報収集に努めた。

成果と課題
有料媒体掲載回数　46 回　掲載費用　1,148,400 円
応募者数：134 名、面接数 44 名、採用数 26 名、定着数 17 名
① 有料求人媒体、無料求人媒体を活用した採用活動や職員の紹介により、採用数の安定性が保たれた。昨年度に立ち上げた会議を有効活用し法人職員の意識の向上に努めている。新規事業所や法人の将来を担う人材確保のため、各市お仕事相談会に参加実施した。新型コロナウイルス感染予防の規制緩和により、各種イベント開催に参加できることで法人の存在を発信していく機会が増え人材の確保に繋げていく。

７、地域づくりと内部環境の整備
重要課題・課題に対する取り組み
１，地域の障がい福祉ニーズの把握と連携強化
２，内部環境の整備と先駆的事業の洗い出し作業
令和４年度の取り組み
法人間や他市の状況及び、地域ニーズについて情報収集に努めたほか、情報共有や情報提供のツールの検討を実施する。
成果と課題
① 地域において短期入所のニーズは非常に高い。かねてより課題となっている体験型短期入所お結びについて段階的な利用を立案し、７月に会員親子２組でのお結び宿泊体験を実施。今後は六三四ホーム職員も加わり、最終的には継続的な利用が可能となるよう推進していく。
② 現在、通所されている利用者様の日中活動・支援に深く関わる職員として、『一人一人にどのような背景があり、そのために職員としてどういった支援が必要か』を再度考察するために、和楽会員として現在に至るまでの背景の発表の場を引き続き検討いたしたい。

【総括】
令和４年度は、政策動向ならびに社会情勢変化に対応するべく情報収集の徹底、ＢＣＰの計画書見直しの検討及び分析を実施して計画的に事業の推進を図ってきたところである。また、社会福祉法人としても地域福祉の礎になるべく内部統制を図り、質の高いサービス向上に努め地域のための法人として役割を担っていかなければならない。法人として一人ひとりの使命とその責任を果たしていくことで自覚を培っていくことが最も重要であり課題でもある。

7、SWOT 分析

Strength：強み ①内政、外交チームの役割・構成 ②社会福祉法人未来との連携強化 ③外郭団体とのコンタクト	Weakness：弱み ①日常業務に追われがち ②恒常的になってしまっている
Opportunity：チャンスとなる外部要因（機会） ①外郭団体からの情報 ②行政関係とのコンタクト	Threat：脅威 ①民間企業との資本力の違い ②法律の改正
S/O　強みと機会 ①法人間交流の機会 ②ノウハウ蓄積の機会 ③事業分析能力向上の機会	W/O　弱みと機会 ①研修の機会 ②他法人の情報取得 ③他法人での研修
S/T　強みと脅威 ①効率的な事業の展開の立案 ②制度の分析力 ③法人間での情報共有	W/T　弱みと脅威 ①制度に関する知識の向上及び具現的な実行能力に欠ける ②制度に関する理解度の浅さ

8、SWOT 分析によるモニタリング報告書

クロス分析

S/O　強みと機会

法人間の協力体制及び事業分析、情報収集についてコロナ禍であっても一定の成果があった。特に、法人後見への見識を深めるきっかけとなり、より一層研究することが求められる。

S/T　強みと脅威

法人間での情報共有により、効率的に法人後見という事業展開の立案が可能となった。更なる、制度の分析を進める必要がある。

W/O　弱みと機会

研修の機会等、未だ対面での研修会の開催は少なく、オンライン研修にとどまっている状況である。

W/T　弱みと脅威

制度に関する知識の低さは未だ恒常的な状態である。幅広く制度の理解や研修の機会を設けていく必要性に迫られている現状。

【令和４年度社会福祉法人六三四　地域支援部事業実績報告】

総括

地域支援部では、専門職の配置や人員配置体制の強化を図り、内部環境の強化に努めた。強度行動障害者支援者基礎・実践研修、医療的ケア児等支援者育成研修を修了、医療介護連携勉強会・感染防止対策研修・高次脳機能障害合同研修等で深めた知識を職員に伝達して、実践方法を内部で検討することで知識、技術面の向上を図った。

感染症において、７月、８月生活リハビリセンター雅、絆で職員と利用者で複数の感染者が発生した。在宅支援に切り替え保健所等関係機関と連携を図り、利用者様、家族の安全、安心確保のため訪問や情報提供等を行った。継続して、感染や災害に備えた緊急時の対応等に向けて具体的なシミュレーションや実践が必要課題となる。

ご利用者様やご家族の将来の生活を共に考え、各々意向に合わせた形で、グループホームの見学や通所希望者の積極的な受け入れを行った。さらには事業所間の連携により、緊急時や将来生活に向けた短期入所お結びの利用促進を実施することができた。

【令和４年度　生活リハビリセンター六三四事業実績報告】

１、事業概要（令和５年３月 31 日時点）

登録者数　　40 名

開所日数　　256 日

年間実績　5,231 名

日々実績　１日平均通所者数 20.43 名

職員数　　27 名（　嘱託医１名　看護師　６名　生活支援員　18 名
理学療法士１名　あん摩マッサージ師　１名　）

常勤換算　14.2 人

2、利用者状況

障害支援区分

区分１　０名　区分２　２名　区分３　10 名　区分４　８名　区分５　９名　区分６　11 名　　計 40 名

平均支援区分　4.4

居住状況

小平市　20 名　東村山市　12 名　東大和市　２名　小金井市　２名　所沢市　２名　八王子市　１名　板橋区　１名

計 40 名

3、重要課題・課題に対する取り組み

重点課題の明確化

①利用者様の持つ障がい特性にあった支援を行っているが、より満足度を追求したサービス提供の必要性がある。

令和４年度の取り組み
障がい特性に合わせた支援体制を確立するべく個々にアセスメントを実施して状況把握、評価、分析を行った。活動グループ分けを行いプログラムの細分化に努めた。また小平市の農福連携事業に携わるなど地域参画を通じて、相互に関わり合いをもつことにより満足度の向上を図った。

②高次脳機能障害など、病状に合わせ特化した個別訓練の実施を推進する必要がある。
令和４年度の取り組み
理学療法士・言語聴覚士・マッサージ師を交えての訓練評価会議を開催し、利用者様の ADL 評価を基に在宅生活を意識した個別訓練を実施した。その他、関係機関と情報共有を密にし、予測される事態に備え在宅サービスや家族介護状況の把握に努めた。

4、成果と課題

① 農福連携事業や清掃活動を実施することで、地域の方達との交流をもち利用者様の活動意欲の向上が図れた。また内部活動では、Wii を積極的に取入れ集中力を高め楽しみながら運動量の向上に努めた。既存の活動に対しても、個々に丁寧なアセスメントをする事で要望や意見の抽出をすることが出来た。利用者様の年齢層、障がいの重度化等の幅があるため活動能力に合わせたプログラムの選択肢をさらに広げるよう、模索しプログラム化していく必要性がある。

② 利用者様ご家族また関係機関との関りを増やす等、顔が見える関係を意識していき、在宅生活状況の把握に努めた。緊急事態に法人内部の短期入所・計画相談事業所と協働して、ご家族、行政機関対応を早期に実施して、包括的に対応を講じた。在宅生活の継続が困難になる要因の情報収集を継続し、各専門職と在宅生活に向けて関わり方や取り組み方法など共有を図り、長く安定した生活を維持するための体制を構築していく必要性がある。

5、総括

令和 4 年度、生活リハビリセンター六三四では、主たる介護者の介護困難事例に対し法人内部の短期入所事業・計画相談事業所と連携を図り行政機関との情報共有を行い早期に包括的対応を実施することが出来た。また緊急時案件では、病院、行政機関との情報共有を密にし、ご家族の介護状況を把握することが出来たため、地域事業所との連携を図り在宅生活の維持継続に繋がった。利用者様の障がいの重度化や在宅生活での介護者の高齢化にあわせて、家庭の状況把握に努めていく。令和 4 年度では、地域支援事業所、権利擁護センター、行政機関、病院と様々な機関と連携を図り多数の新規利用者様の受け入れを行った。

令和 5 年度は、様々な年齢層、障害特性、活動能力合わせたグループ分けや重度の障害に特化した支援プログラムの確立、職員の支援能力の向上に向け資格取得の推進と専門職との連携が求められる。

6、SWOT 分析

strength：強み ①職員の個性を生かした支援プログラム ②明るい施設の風土 ③レザークラフト等の確立した支援プログラム ④送迎支援の充実 ⑤家族を含めた包括的支援の実施 ⑥嚥下を意識した青空体操	weakness：弱み ①直接支援能力に個人差がある ②外部研修参の少なさ、情報不足 ③情報共有能力 ④中堅パート職員の離職率 ⑤各年齢層、障がい特性に適した支援プログラム
opportunity：チャンスとなる外部要因（機会） ①徒歩圏内に 3 か所同法人の事業所がある ②喜平リハビリテーションクリニックとの連携 ③事業拡大による利用者様ニーズへの対応力 ④市や都と相談ができる機会がある	threat：脅威 ①株式会社による介護事業参入 ②報酬単価の改定 ③事業拡大による更なる人手不足 ④支援、送迎による事故等の信頼失墜 ⑤コロナウイルス感染症による外出支援の自粛
S/O　　強みと機会 ①六三四、雅、絆との連携による充実した行事プログラム ②通所事業所とグループホームとの連携による支援体制の強化 ③医療職との連携による専門的支援体制の強化	W/O　　弱みと機会 ①　外部研修の内容を施設に持ち込むことにより職員の直接支援能力の向上 ②　各施設との連携強化による利用者様の各年齢層、障害特性に適した支援プログラムの作成・現存の支援プログラムの作成 ③　事業拡大による職員の適材適所の人員配置

S/T　　強みと脅威	W/T　　弱みと脅威
①　職員の自由な発想、個性を生かした意見を取り入れ他の生活介護事業所との差別化を図る ②　明るい風土を生かした新規利用者獲得通所促進 ③施設会議を通じリスクマネジメント力の強化	①福利厚生の充実、働き方の多様化に対応することにより人手不足解消を目指す ②施設会議、リスクマネジメント会議を開催することにより事故防止の意識を高める ③　福祉分野以外の人との交流を深めるほか、外部研修等に参加することにより経営のヒントを得る

ＳＷＯＴ分析によるモニタリング報告書

クロス分析

S/O　強みと機会

グループホーム職員が日中支援に入ることにより情報共有を行い、支援体制の強化に繋がった。専門職、医療機関、行政機関、計画相談事業所と連携を取ることにより緊急時の包括的な支援体制を図れた。

S/T　強みと脅威

職員からの意見の集約、自由な発想を取り入れる事で例年とは違った雰囲気の行事が行えた。各所関係機関との関係構築を行い、施設見学や相談を受け新規利用者様の受入れに至った。

W/O　弱みと機会

障害特性や活動能力に合わせた支援プログラムに関して全体では乏しいが、個々にアセスメントを行い見直し・強化に努め意見や要望の抽出を図った。

W/T　弱みと脅威

職員の事故防止に対する意識を高めていくため過去の事例をもとにリスクマネジメントを実施した。送迎では添乗員をつける等、安全対策をとった。

令和４年度入職状況表

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 名	3 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	2 名	2 名	0 名	2 名	12 名

【令和４年度生活リハビリセンター雅　　事業実績報告】

1、事業概要　（令和４年４月１日から令和５年３月 31 日まで）

登録者数　　23 名

開所日数　　256 日

年間実績　　3,184 名

日々実績　　１日平均通所者数 12.43 名

職員数　　20 名（嘱託医１名　看護師　３名　生活支援員　16 名　）

常勤換算　　13.0 人

2、利用者状況

障害支援区分

区分１　0名　区分２　0名　区分３　0名　区分４　1名　区分５　4名　区分６　18名　計 23 名

平均支援区分　5.73

居住状況

小平市 10 名　東村山市 5 名　東久留米市 2 名　西東京市 2 名　東大和市　1 名

小金井市 1 名　世田谷区 1 名　新座市 1 名　計 23 名

3、重要課題・課題に対する取り組み

重点課題の明確化

①　障がいの多様化と重度化に伴う、環境整備を図る

令和 4 年度の取り組み

特別支援学校卒業生 3 名、9 月 1 名と 1 月 2 名が新規利用となり、受け入れに伴い必要な環境整備を総合的に行ってきた。利用者数増加に対して適切な職員配置で障がい特性に応じて充実した活動が実施できるよう、円形多機能テーブル導入や所内配置換え等による導線確保と空間拡張を行った。また、障がいの重度化に対しては看護職職員・支援職員の充足に努めるとともに、吸引器等の医療機器導入やニーズ変化への柔軟な対応を行い、個別ケアの必要な方に対して安定した支援に取り組んだ。

②　利用者家族のニーズ把握に取り組み、包括的な支援を図る

令和 4 年度の取り組み

web 利用での個別面談を試みたが、ご家族の通信機器等の用意が困難な状況等もあり、感染状況を考慮して家庭訪問や施設内面談に切り替えて実施し、アセスメントの更新及び利用者様・ご家族のニーズ把握に取り組んだ。また、ショートステイ見学同行や生活環境改善のサポート等、家庭状況に応じた対応を実施してきた。

4、成果と課題

①　ハード面では備品購入等の環境整備により活動幅が向上し、身体的活動機会の増加へ繋げた。同時に活動グループの細分化により意向に沿った活動も可能となり身体的・精神的に安定した事業実施が行えている。ソフト面では職員の増員を実施し、外部法人研修や他施設見学、法人内全体研修を通して個々のスキルアップを実現し、持ち帰った知識や体験を支援に取り入れることで活動の充実化と質の向上を図った。しかしながらスキルの格差により業務量の偏りが著しく、ボトムアップが今後の課題としてあげられる。

②　家庭訪問や施設内面談だけでなく送迎時や電話連絡等も機会として捉え、利用者様・ご家族のニーズ把握に取り組むことにより、嚥下障害に伴う食形態の再検討の実施等、事業所専門職や関係機関と連携し個々の状況に合わせた対応や信頼関係構築に繋げている。全利用者様の在宅環境把握には至っていない為、今後も継続して取り組んでいく。

また、得た情報を共有し個々職員が把握に努め、支援に繋げることが今後の課題となる。

5、総括

生活リハビリセンター雅では、フロア内導線確保等環境整備と利用者様・ご家族のニーズ把握を重点的に取り組み、個々の障がい特性に合わせた活動プログラムの実現と将来を見据えた包括的支援に繋げたが、登録利用者数増により活動スペースの確保が継続課題となる。また、現状支援スキルのばらつきが顕在化しているため、令和 5 年度は職員への適正指導や内外研修に注力し、個々のスキルアップと支援の均一化を推進していく。

6、 SWOT 分析

Strength：強み ①職員体制の充実 ②細分化された支援プログラム ③職員の柔軟な発想 ④職員間でのコミュニケーションの醸成と形成 ⑤外出プログラムの充実 ⑥医療的ケアに向けた環境整備	Weakness：弱み ①個々のスキル不足 ②障害特性に適した支援プログラムの構成 ③計画性を持ち業務の実行が出来ていない ④職員の役まわりの認識不足 ⑤各年齢層に適した支援プログラム
Opportunity:チャンスとなる外部要因(機会) ①求人応募に関して一定確保出来ている ②他事業所と連携し地域移行支援を行っている ③同事業体が近隣にある	Threat：脅威 ①株式会社による事業参入 ②事故によるイメージダウン及び信頼失墜 ③報酬単価の改定
S/O　強みと機会 ①求人募集に関して一定数の職員確保により職員体制の充実へ繋がる	W/O　弱みと機会 ①求人応募に関して一定数職員の確保が出来たが、職員の役まわりの認識不足が伺える ②各年齢層に適したプログラムの作成
S/T　強みと脅威 ①株式会社による事業参入の脅威はあるが職員の柔軟な発想を活かした支援プログラムで他の事業所との差別化を図る	W/T　弱みと脅威 ①個々の役回りの認識不足により、イメージダウン及び信頼失墜に至る可能性がある ②株式会社による事業参入により、事業所経営が困難になる

SWOT 分析によるモニタリング報告書

クロス分析

S/O　強みと機会

適切な職員配置で障がい特性に応じた活動が可能となり、同時に活動グループの細分化に取り組むことで、身体的活動機会の増加等ニーズに沿った活動プログラムへ繋げた。

S/T　　強みと脅威
職員の柔軟な発想を活かした活動プログラムの試行・選定を重ねたが活動の定着には至っていない。今後も企画立案を実施し、他事業所との差別化を図る。
W/O　　弱みと機会
職員数の充足と並行した個々の支援スキル向上が今後の課題となる。
外部研修や全体研修にて新規職員の能力向上を図り、充実した個別ケアへ繋げる。
W/T　　弱みと脅威
職員と利用者様・ご家族の顔の見える環境づくりに努めた。意思疎通を深め信頼関係の構築を図り、未然にトラブルに対してのリスクマネジメントを実施。

入職状況表

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	2名	1名	0名	0名	1名	1名	0名	1名	0名	0名	1名	7名

【令和4年度生活リハビリセンター絆事業実績報告】
1、事業概要　（令和5年3月31日時点）
登録者数　　23名
開所日数　　256日
年間実績　　4,488名
日々実績　　1日平均通所者数 17.53名
職員数　　18名（嘱託医1名　看護師　2名　生活支援員　15名　）
常勤換算　　12.7人
2、利用者状況
障害支援区分
区分1　0名　区分2　1名　区分3　1名　区分4　4名　区分5　8名　区分6　9名
計23名
平均支援区分　5.0
居住状況
小平市9名　東村山市2名　東久留米市4名　西東京市4名　小金井市1名　武蔵野市1名　練馬区1名　世田谷区1名　計23名
3、重要課題・課題に対する取り組み
重点課題の明確化
①　個別支援を確立し、各障がい特性の方々が安定して活動できる環境整備。
令和4年度の取り組み
職員の増員をして人員体制の強化を図った。強度行動障害者支援者基礎・実践研修、医療的ケア児等支援者育成研修を受講し、受講後には伝達研修を実施して職員間で共有を図

った。事故やトラブルが発生した際は、現場の情報の整理や対応の分析等、すぐに振り返りを行い、所内全体で改善策を検討して再発防止に努めた。併せて、同じ事項を繰り返さないよう、事業所会議でリスクマネジメント研修や評価を実施した。

②　積極的な地域との交流を推進していく。

令和４年度の取り組み

地域交流機会では近隣保育園とＷＥＢ交流会を実施した。また、小平市の農福連携事業に携わり、市内の農家と協働しながら地域参画の推進に努めた。活動では、リサイクル活動、生物飼育や園芸栽培等の各作業工程において、利用者様が参画できるようなプログラムの構築を図った。

4、成果と課題

①　人員配置体制を強化し、職員間の連携と丁寧で行き届いた支援の実現を目指した。小さな変化に対する気づきや、積極的な改善案の提示など、職員の言動に前向きな変化が見られた。

個別記録や手順書を活用することで、同一の対応ではなく、個々の特性に合わせた支援の検討に努めた。特に強度行動障害の対応について苦慮する場面が多かったため、記録を振り返り、対応を見直す機会を設けたが、活用できる記録の書き方の習得とアセスメントスキルの向上が課題である。

事故・トラブルにおいては、直接的原因だけでなく背後要因に対しても注視して、より具体化した実効性のある対策が必要である。未然に防止するための継続的な対策、情報収集を実施していく。

②　行事や活動では職員に担当制を設けたことで、主体性と責任を持ち、業務にあたることができた。さまざまなアイデアの企画が生まれ、活動幅の拡張と満足度向上に繋がった。今後はさらに細分化した計画立案や、個別支援の充実を図っていく。

5、総括

令和４年度は職員体制の強化を図り支援体制を構築した。令和元年開所から４年が経過し職員も定着しつつある。チームプレイを意識して業務に取り組むことで、徐々に支援力が向上してきている。支援の方向性を明確にする事や、情報伝達及びガバナンスの強化に努め、更なる組織力向上を目指していく。活動や行事については、様々なプログラムを取り入れ、充実と内容の安定化を図った。次年度は、リサイクル活動や生物飼育・園芸活動、清掃活動の更なる充実を図ると共に、利用者様本人がやりがいや楽しみを持てるよう分析、計画、実践を行う。

6、SWOT 分析

Strength：強み ①送迎対応地域が広域である ②身体、知的、発達、精神障がいと多様な受け入れを行っている ③固定化された日中活動ではなく新しい活動を試案している ④ショートステイが併設されている ⑤同事業体が近隣にある	Weakness：弱み ①身体障がい以外の支援に関して、知識や経験が浅い ②日中活動が確立できていない ③施設として、日々の変化が少ない ④職員間で支援能力の差がある
Opportunity：チャンスとなる外部要因（機会） ①地域交流の機会が多く、社会参加を体感できる ②複数の地域特別支援学校とのつながりがある ③関係機関との連携が密に出来ている	Threat：脅威 ①他法人が行う生活介護事業との競合 ②法改正に伴う介護給付費などの報酬改定 ③市内生活介護事業所では、工賃が出ている事業所が増えている
S／O　　強みと機会 ①各特別支援学校卒業生を受け入れる送迎体制を構築する ②関係機関からの情報収集を行い地域のニーズを把握する ③多様な障がいを受け入れる事により利用人員が安定する	W／O　　弱みと機会 ①各特別支援学校への見学や研修を通して知識やスキルを向上していく ②地域交流を積極的に行うことで日々の変化をつけていく
S／T　　強みと脅威 ①対応地域を広げることで他法人との競合を避ける ②工賃の配給プログラムを検討していく ③強度行動障害加算等を取得して、報酬改定に対応していく	W／T　　弱みと脅威 ①他法人とのプログラムの競合により、利用者流出の懸念 ②制度改正に対応できず、事業縮小

SWOT 分析によるモニタリング報告書

クロス分析

S/O　　強みと機会

車輌整備を行い、送迎範囲を拡充した。利用者様の親亡き後を見据えた中長期での個別支援を図るため短期入所事業、計画相談支援事業と連動を図り利用開始に繋げた。

S/T　　強みと脅威

人員配置体制加算を１：７へ体制強化、強度行動障害加算を取得等、大幅な増収を図った。

工賃配給プログラムについて定期的に配給できるよう検討に努めた。
W/O　　弱みと機会
感染状況により行動範囲が制限されたが、外部研修を受講して知識を深め職員間で共有を図りスキル向上を図った。外部交流会等機会を設け地域参画に努めた。
W/T　　弱みと脅威
内外活動プログラム構築のため、試案、実行、検討を重ねた。日々変化を目的としたアプローチを実践した。

令和４年度入職状況表

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
２名	０名	０名	１名	０名	１名	０名	０名	０名	０名	０名	０名	４名

【令和４年度デイサービス絆事業実績報告】

1、事業概要　（令和５年３月 31 日時点）
　登録者数　　０名
　開所日数　　０日
　日々実績　　０名
　職員数　　０名
　常勤換算　　０人
2、利用者状況　（令和５年３月 31 日時点）
　計０名
3、重要課題・課題に対する取り組み
　重点課題の明確化
①　保健情報や請求事務、利用書類等により詳細に運営体制や事務体制の基盤を確立していく必要がある。
令和４年度の取り組み
　７月１日付共生型通所介護運営規定を提出、職員へ共生型通所介護事業の事業目的、趣旨の説明。市内包括支援センターと懇談機会を設けた。
4、成果と課題
①利用者０名のため事業開始には至っていない、必須研修等計画的に実行をしていく。

5、総括
　障害福祉サービスを利用している方が年齢を重ねても、個々の状態やニーズに合わせた形で介護保険サービスに移行できるよう、制度体制を整えていくことが求められている。現状、稼働実績がない状況ではあるが、高齢化が進む中で重層的な支援が必要であるため

今後も国の動向に注視していき、受入体制の整備や情報収集等準備を進めていく。

【令和４年度　社会福祉法人六三四　生活支援部】

総括

コロナ禍も 4 年目を迎え、感染者の急増した時期を乗り越え、感染対策に取り組みつつ社会の雰囲気が徐々に変わっていくことを感じた１年であった。令和 4 年度の事業実績を踏まえたうえで、利用者様・ご家族、を中心としたニーズに答えていく必要があると考えております。グループホーム・短期入所事業を安定的に運営し、社会福祉法人六三四を利用希望される方の居住面や夜間支援面の受け皿として、生活支援部の機能充実は必要なことであり、現在 2 ユニットで運営している六三四ホーム・短期入所お結びを含め、地域移行の推進面からも依然地域でのグループホームのニーズは高まっております。利用者様への支援については引き続き入居者の身体状態（ADL）の低下や物価高騰など利用者様を取り巻く社会環境の悪化が考えられ、なおかつ入居者様の高齢化をを見据えた将来的な課題も考えられます。生活支援部での事業活動を通じて「ノウ・ハウ」の蓄積に努め職員の支援能力や対応能力のスキルアップ、ボトムアップを行い支援の「質の向上」を目指して職員の支援能力向上を軸に事業運営を行いたいと考えております。

【令和４年度　六三四ホーム事業実績報告】

1、事業概要（令和５年３月 31 日時点）

登録者数　８名（青粋ケアホーム４名　彩ケアホーム４名）

開所日数　青粋ケアホーム 359 日（夜間支援 307 日　土曜日休所）

彩ケアホーム　 365 日（夜間支援 365 日）

職員数　 21 名　（常勤４名　非常勤 17 名　　男性８名　女性 13 名）

常勤換算　6.5 人

2、利用者状況

障害支援区分

区分４：１名　区分５：３名　区分６：４名　計８名

平均支援区分　5.37

居住状況　　小平市５名　東村山市１名　武蔵野市１名　小金井市１名　計８名

曜日別の夜間利用率（%）　　六三四ホーム平均：80%								
	月	火	水	木	金	土	日	平均
青粋ケアホーム	94	95	95	93	49	―	49	79
彩ケアホーム	94	95	92	79	72	73	72	82

3、 重要課題・課題に対する取り組み

重点課題の明確化

①　入居者様の状況においては健康保持と生活の質の向上、健康状態の悪化に備えたホー

ムでの支援・対応機能の拡充が継続の課題となっており、ご家族・日中活動先、相談支援事業所等との連絡を密にし、支援情報の共有を深める課題にも合わせて取り組みを行う。
②　職員については職員間での入居者様の支援情報共有を深めるため、まずヒヤリハット・トラブル報告書の事例検討を積極的に行うことが継続の課題として考えられ、支援能力の向上のため各種研修を進める
令和４年度の取り組み
　コロナ感染症の入居者様支援のため青粋ケアホームにて土曜日の開所を臨時的にホームでの療養支援を継続して行った。日中活動先との情報共有については連絡ノートでの確認を全職員で行うよう周知し、不足部分については電話等での確認を行いながら情報共有に努めた。支援情報の共有については月１回の事業所職員会議において、2ユニット分のヒヤリハット・トラブル報告の事例検討やトラブル内容についての周知を職員に行った。法人内研修（権利擁護・虐待防止）には全員が参加することを目標設定として取り組みを行った。年度途中より急加速した電気料金を中心とした食品・日用品の急速な物価の高騰については利用者様の支援に影響を及ぼさない範囲での節約への取り組みを行った。
4、成果と課題
①　成果として見られるものとしては入居者様の健康保持については、青粋ケアホーム利用中に入居者様のコロナ陽性が判明し、ホームにて療養隔離期間を過ごして頂いたが、他の入居者様やホーム職員への感染もなく入居者様も重症化することなかった。健康状態の維持については体重が漸増していた入居者様について、ご本人様・ご家族と面談を行いながら主食の一部をを低カロリー食品へ置き換えを行い、１年で５キロの無理のない体重の減量に成功した。ホーム職員間での入居者様の支援情報共有とヒヤリハット・トラブル報告書の検討についてはヒヤリハット・トラブル事例が起こったユニットでの検討に加え、事業所職員会議での確認も行ったため職員の支援能力の向上が見られている。
課題として考えれるものとしては、世界情勢の不安定さによって急加速した食品・日用品の物価高騰による事業費・事務費の増大は欠かせない課題である。職員の主体的な参加・意見交換については職員会議への参加率、職員会議等での発言が職員によって偏ることがあり、話す職員と話さない職員が見られる。ケース記録、業務日誌、業務引き継ぎノート、温度板（バイタル・食事量・摂取水分量）の記入漏れも散見される。処方薬の受け取り、薬情報の管理については一部の管理職のみしか行う事が出来ておらず業務の集中につながっている。
5、総括
　令和５年５月８日よりコロナウイルス感染症が２類から５類へ引き下げが行われ、社会は徐々にコロナ前の生活に戻りつつある状況下、物価高騰による運営状況を悪化に注視しつつ、引き続き入居者様の体調に配慮し、職員間での入居者様情報の共有・確認を綿密に行い、勤務する職員の養成、六三四ホームとして事業計画をスムーズに実行できるよう進めていく。並行して、お結びの職員兼務などを通じてホーム職員の対応能力の向上を目指

していく一方で、コロナウイルス対策については法人の方針にならい対処し、発生時の想定を行う（BCP の作成の推進）青粋・彩ケアホームの入居者は身体の介助度が高い方が多いため、体力低下や後遺障害が起こる可能性が高いため、入院した場合や退院してグループホームへ帰ってきた後の対応や介助についても予め予想しておく必要があることを念頭において事業運営を進めていく。

6、SWOT 分析

strength：強み ①少人数できめ細やかな支援を行える ②職員配置を手厚く行っている ③家族を含めた包括的支援の実施 ④医療面（訪問診療・訪問看護）の利用による健康管理を行っている ⑤利用者様の傾聴支援を行っている	weekness：弱み ①直接支援能力に個人差がある ②外部研修参加職員の少なさ、情報不足 ③職員間の情報共有に時間がかかる ④職員の定着に時間がかかる ⑤全体を見渡した支援をするのに時間がかかる
opportunity：チャンスとなる外部要因(機会) ①徒歩圏内にグループホーム・生活介護事業所がありバックアップ体制がある ②喜平リハビリテーションクリニック・みどり内科クリニックとの情報共有・連携による手厚い支援をホームで行える ③今夏より２ユニットで運営できる ④施設近隣地域との関係性が良好である	threat：脅威 ①新規参入事業者の林立による埋没化 ②報酬単価の改定による給付費の減算 ③直接支援職員の不足 ④職員への指導や人事管理を行う指導層職員の不足 ⑤施設内事故等による信用の失墜
S/0　　強みと機会 ①生活介護との連携による充実した日中活動も含めた新しい支援プログラム ②通所事業所との連携によるホームでの支援体制の強化 ③医療職との連携によるホームでの専門的な支援体制の強化	W/0　　弱みと機会 ①外部研修の内容を施設に持ち込むことにより職員の直接支援能力の向上 ②各施設との連携強化による利用者に適した支援プログラムの作成
Ｓ/T　　強みと脅威 ①職員の自由な発想、個性を生かした意見を取り入れ支援に取り入れる ②職員会議・全体研修会などを通じ、リスクマネジメント力の強化	W/T　　弱みと脅威 ①福利厚生の充実。働き方の多様化に対応することにより人手不足解消を目指す ②職員会議、全体研修会に参加することにより事故防止・権利擁護の意識を高める ③異業種交流などにより新たな運営のヒントを得る

Ｓｗｏｔ分析によるモニタリング報告書

クロス分析
Ｓ/０強みと機会
医療職との連携については訪問医との迅速な連絡体制は取れており、引き続き継続していく日中事業所（法人内）との連携についてはホーム職員には定期的に日中事業所（法人内生活介護）での研修を義務付けており連携や理解は深まっている。
Ｓ/Ｔ強みと脅威
職員会議での意見交換は支援へのより活発な議論を期待したいが、話す職員と話さない職員がいるため話さない職員の意見の汲み取りが課題としている。職場環境として自由な発想や個性を迎え入れる風土作りを目指したい。今年度は介護福祉士試験に合格した職員がいるため、引き続き職場内での雰囲気づくりを行い「学ぶ」ことへの取り組みを行う。グループホーム事業への異業種からの参入が相次いでおり、その中に埋没することなく、地域に根差す法人としての存在感、信頼感を高めることは今後の課題である。
W/０弱みと機会
グループホーム従事者基礎研修、グループホーム体制強化研修の受講職員がいるため、職場内での伝達研修を行う予定である。研修受講を踏まえて、利用者に適した、喜んでもらえる支援プログラムについては職員間で検討を行いたい。
W/Ｔ弱みを脅威
令和５年度も行われる予定の小平市お仕事フェアに関しては昨年度職員が入職した経緯もあるため積極的に取り組みを行いたい。異業種交流についてはコロナもあったため交流は進まなかった。

令和４年度入職状況表

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
１名	０名	０名	１名	０名	０名	１名	０名	０名	０名	０名	０名	３名

【令和４年度お結び事業実績報告】
1、事業概要（令和５年３月 31 日時点）
登録者数　　12 名（男性５名　女性７名）
開所日数　　204 日
年間実績　　261 日
職員数　　６名（非常勤　男性職員２名　女性職員４名）
常勤換算　　1.2 名
利用人数　　10 名（法人内利用者９名）
2、利用者の状況
　障害支援区分

区分１　０名　区分２　０名　区分３　２名　区分４　１名　区分５　８名　区分６　１名
計 12 名
平均支援区分　4.6
居住状況　　小平市５名　東村山市３名　西東京市３名　東久留米市１名　計 12 名

3、重要課題・課題に対する取り組み

重点課題の明確化

①　職員体制の強化を中心としたお結び支援体制の整備を行い、引き続き新しい体験利用者の受け入れ態勢を充実（職員の支援能力向上、対応能力向上の課題）お結び利用者様が安心して利用して頂けるように取り組みを行う。職員の支援能力向上にあたっては基本としてヒヤリハット・トラブル報告書の事例検討を積極的に行い職員間での情報・支援内容の統一に向けた課題に取り組みを行う。

令和４年度の取り組み

お結びでの勤務する職員をある程度固定し、担当する職員を決めて利用者様に合った支援方法を探るべく集中的に支援を行い、自宅での生活状況も踏まえたうえで、自宅では時間が取れなくて出来ない事（傾聴、生活動作など）を積極的にして過ごして頂く取り組みを行った。特に精神障がいの利用者様への利用については傾聴を重視し、利用者様からの話してもらう事によって、気持ちに寄り添えるよう取り組みを行った。

4、成果と課題

成果としては介護者（利用者ご家族）の急病・急逝による緊急的な受け入れが今年度は２件発生したがお結びを中心として行先が決まるまで継続支援を行い、小平市内へのグループホームへ入居された。支援職員を固定し、同じ職員が利用者支援を行う事によって利用者様が職員を認識し自宅では就寝に時間が掛かっている利用者様がお結びでは早めに就寝できている状況がみられている。特に精神障がいの利用者様については傾聴を行う事によって利用者様のパーソナリティに近づくことにより、利用者様の体調や気分の変化に職員の気づきが生まれており、支援内容や引継ぎ事項にも変化が起こっている。

日中系サービス事業所（六三四・雅・絆）と連携をはかり利用者の詳細情報（生活面・体調面など）の共有を行うことが出来ており、お結びでの支援にてスムーズな利用者様への対応が少しずつであるが進んでいる。

5、総括

将来のグループホーム利用を見据えた体験的な利用者も法人内各事業所より増えており、引き続き支援職員の養成、利用者情報の共有を綿密に行い、支援能力・対応能力の向上に努めて行かねばならない。開所日数を拡大し多くの利用者様の受け入れを行い、ショートステイのとしての重要な意義として、「ご家族のレスパイト」、「宿泊体験」を通して、利用者様の生活支援ができるよう努めていきたい。グループホームと違い職員も毎回違う

利用者を支援するため、より対応能力の向上が不可欠な事業であることを認識し、職員の支援技術の向上、生活スタイルも十人十色である利用者様への対応も柔軟にできるよう職員養成を行い利用者様にショートステイを楽しみにして利用していただけるよう努力して事業運営にあたっていきたい。

6、SWOT 分析

strength：強み ①少人数できめ細やかな支援を行える ②職員配置を手厚く行っている ③利用者様の傾聴支援を心掛けている ④体験の場として確保している	weekness：弱み ①安定的な運営ができない ②人材不足 ③効率的な人員配置が困難
opportunity：チャンスとなる外部要因(機会) ①徒歩圏内にグループホーム・生活介護事業所がありバックアップ体制がある ②施設近隣地域との関係性が良好である	threat：脅威 ①新規参入事業者の林立による埋没化 ②報酬単価の改定による給付費の減算 ③直接支援職員の不足 ④職員への指導や人事管理を行う指導層職員の不足 ④施設内事故等による信用の失墜
S/O　　強みと機会 ①緊急時の受け入れ態勢の強化 ②医療職との連携による専門的支援体制の強化	W/O　　弱みと機会 ①体験等の利用者に適した支援プログラムの作成
Ｓ/T　　強みと脅威 ①職員の自由な発想、個性を生かした意見を取り入れ支援に取り入れる ②職員会議・全体研修会などを通じ、リスクマネジメント力の強化	W/T　　弱みと脅威 ①福利厚生の充実。働き方の多様化に対応することにより人手不足解消を目指す ②職員会議、全体研修会に参加することにより事故防止・権利擁護の意識を高める

Ｓｗｏｔ分析によるモニタリング報告書

クロス分析

Ｓ/０強みと機会

介護者の急病などで、東村山市と東久留米市より緊急受け入れを行った。医療職との連携については開所日数が少ないため強化は課題である。

Ｓ/Ｔ強みと脅威

利用者数自体が少ないため現在のうちに検討や意見交換を行うことが得策ではあるが十分な議論が出来ていない現状が継続しているため課題である。

W/０弱みと機会
登録者数は増加傾向であり開所日数も限られている現状の課題は継続している、引き続き新しい体験プログラムを検討し、利用者様に体験的利用が「経験」としてご本人に積みあがっていけるよう努める。
W/T弱みを脅威
人材についてはグループホーム職員との兼務が続いているが、利用者様も徐々に「見知った」職員に安心しており兼務は効果を上げている。本来であれば短期入所専門職員配置が望ましいことではあるが、課題として引き続き研究を行う。

令和４年度入職状況表

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

【令和４年度　社会福祉法人六三四　相談支援部】

総括
　地域にお住いの障がい児・者の地域生活、療養生活を安心して送るためにも、相談支援専門員の拡充と専門性の向上が一層求められている。さらには計画相談を通じて地域における障がい者福祉サービスの適正な提供と利用の体制づくり、必要なサービスの創出も必要となってくる。今後も、日常生活を送る上で障害福祉サービスを適切に必要なサービスが利用できるよう相談、助言を行い障害者総合支援法に基づく計画相談支援及び障害児相談支援サービスを適切に提供していく。令和４年は小平市地域自立支援協議会へ参画をし行政機関、教育機関、医療機関、介護保険事業所等との連携を深めたほか、地域資源を活用して支援の幅を広げていくことが一層求められている。

【令和４年度　スカイサポートセンター事業実績報告】

1、事業概要　（令和５年３月 31 日時点）
　登録者数　　障がい者　46 名　　障がい児　９名
　職員数　　１名（相談支援専門員　１名）
　常勤換算　　１人
2、利用者状況
　〇障がい者
　社会福祉法人六三四の施設利用者 20 名　計画相談のみの利用者 26 名
　障害支援区分
　区分なし　11 名　区分１　０名　区分２　２名　区分３　６名　区分４　５名　区分５　５名　区分６　17 名　計 46 名
　（計画相談において障害支援区分は報酬単価に反映しない）

援護の実施者の状況
小平市 31 名　２３区５名　国立市３名　東村山市１名　東久留米市１名　三鷹市１名
西東京市１名　東大和市１名　八王子市１名　所沢市１名

〇障がい児
（児童については障害支援区分を出していない）
援護の実施者の状況
小平市９名

3、重要課題・課題に対する取り組み
重点課題の明確化
① 専従職員１名に職務を習熟させ、計画相談支援サービスを充実させていく
令和４年度の取り組み
基本的に日常業務は専従職員をおいたことで、従来兼務で行っていた職員は相談支援業務のサポートや業務上の相談に回るように体制を組むことができた。専従職員を置くことで、電話の対応が外出時以外できるようになり、新規の依頼も受けることができた。4 年度は専従職員が「東京都精神障害計画相談従事者等養成研修事業」を修了した。

② 緊急時のコーディネート力の向上及び、地域へのアプローチ支援の基盤を確立する
令和４年度の取り組み
社会福祉法人六三四の利用ではない外部の方からの様々な相談の依頼、緊急時に即応できるスキルや関係機関との関係づくりに取り組んだ。地域自立支援協議会の中の相談支援ワーキングにおいて幹事事業所を務める年度でもあったので市内の相談支援事業所との関係づくりにも取り組むことができた。

4、成果と課題
① 専従職員を置いたことで、計画相談利用者の情報の一元的な管理を行うことができるようになった。一元的な情報管理により、関係機関との情報共有や利用者を取り巻く環境について全体像を把握しやすくなった。4 年度に「東京都精神障害計画相談従事者等養成研修事業」を修了したことで令和 5 年 4 月より精神障害者支援体制加算を算定できるようになった。引き続き加算の取得を目指して研修を受講する必要がある。ヒューマンエラーについては可能性を排除できないので、引き続き慎重な業務遂行を行う必要がある。
② 緊急時のアプローチについては令和 3 年度から今年度当初にかけてのケースと令和 4 年 7 月に家族の疾病というケースがあった。いずれも法人内の事業所及び外部事業所の協力により緊急時のアプローチは一応の終結を迎えている。4 年度は関係者を介しないケースで「就労移行支援事業所を利用したいので計画相談をお願いしたい」という依頼が 3 件、「放

課後等デイサービス（もしくは児童発達支援）を使いたいので計画相談をお願いしたい」という依頼が 3 件あった。今後もこのようなケースは続くと思われる。コロナ禍後の状況を踏まえて広く外部と関係を作っていく必要がある。

5、総括

専従の相談支援専門員を配置できた初めての１年となった。「東京都精神障害計画相談従事者等養成研修事業」の修了により新たに加算を算定できるようになった。引き続き残る加算の取得を目指して研修の受講を申請していく。

令和４年度は従前よりのご利用者様に加えて就労移行支援、放課後等デイサービス、児童発達支援等を使いたいと小平市「障がい者のしおり」を見て依頼される方がいらっしゃった。コロナ禍で制約が続いた時期であったが、計画相談については「福祉サービスを利用したいから計画を立ててほしい」という需要がまだまだあることが推測できる。また、計画相談の依頼をされてくる方は福祉サービス利用を通じてご自身の生活（児童の場合はお子様の生活）をより良いものにしたいと願っておられる。願いにお応えできるよう相談支援専門員の技量の向上、関係機関との良好な関係作りはさらに必要である。地域やご利用者様の利用される周辺市の社会資源を知る取り組みや、疾病や障害に対する理解を深めることも必要である。新型コロナ感染症は５類相当の感染症に指定され、コロナ禍後が見え始めている。改めて、人と人が接して表情を読み解きながら願いを具体化していくケアプランを立てていく相談支援本来の支援が求められている。

6、SWOT 分析

Strength：強み ① 相談支援従事者初任者研修修了者が法人内に多数いる ② 地域や団体の研修参加を通じ横のつながりがある ③ 知的、身体だけでなく精神、難病、児童についても計画相談を行える ④ 法人内に通所、グループホーム、短期入所の施設がある ⑤ 児童や学校に詳しい職員がいる ⑥ 専従職員の配置が１名できた	Weakness：弱み ① 十分な計画性を持ち業務遂行できている状況とは言えない ② 必要な加算請求取得のための研修の受講ができていない部分がある ③ １名を除き相談支援専門員は兼務体制である ④ 受給期限の管理やモニタリングの時期の管理は人の目によるため、漏れ等のヒューマンエラーの危険性がある
Opportunity：チャンスとなる外部要因（機会） ① 居宅介護事業所と交流機会がある ② 市内だけでなく他地域との接点を多く	Threat：脅威 ① 株式会社の参入が始まっている ② 市内に新規の相談支援事業所が開所した

持つ機会がある ③ 新規通所者に計画作成依頼がある ④ 新規に児童の計画作成の依頼がある ⑤ 市と相談できる機会が多くある ⑥ 市内にある相談支援事業所と交流の機会がある	③ 報酬単価の見直しにより給付が下がった ④ 加算の要件が厳しく、加算のための研修が年に１回と加算取得が厳しい状況にある
S／O　強みと機会 ① 居宅介護事業所との連携強化をさらに進める ② 事業所の体制を整え、丁寧で充実した計画の立案、実施を図る ③ 従事する相談支援担当者の強みを生かした分野の計画相談の新規開拓を進める	W／O　弱みと機会 ① 加算の要件を満たすために年間 1 回の研修には積極的に応募してゆく。 ② 相談支援事業所の体制確立のため法人内での引継ぎの他、市内他事業所との交流の機会に必要な点のアドバイスを頂く
S／T　強みと脅威 ① 職員配置に対して給付が少ないことで収支のバランスが悪い ② 得意分野や特色を打ち出して、丁寧な特定相談、計画作成、モニタリングを行う	W／T　弱みと脅威 ① 新型コロナの影響による直接の接触機会の不足による、質の低下と利用者の減少 ② 報酬減額による事業所運営の収支バランスの悪化（制度の構造的な問題）

SWOT 分析によるモニタリング報告書

クロス分析

S/O　強みと機会

① ･･･居宅介護事業所との連携により法人内の生活介護をご利用でない利用者様の日常生活やお困り感の連絡を頂くことが可能となった。

S/T　強みと脅威

①･･･専従職員を配置できたことで質的な向上を図っていく。併せて、得意分野を中心に幅広く積極的に新規の利用者を受け入れている。

W/O　弱みと機会

①･･･昨年度の医療的ケア児コーディネーター養成講座に続き、今年度は精神障害計画相談支援従事者等養成研修事業の受講を実施。

②･･･今年度は相談支援ワーキングの幹事事業所でもあるので積極的に他の事業所に働きかけ交流機会を持てた。

W/T　弱みと脅威

①･･･コロナ禍による影響は継続して受けている。事業所や居宅等の訪問も最低限に近いぐ

らいにとどめている。感染の落ち着いている期間を利用して少しずつ見学や訪問を再開が可能となった。

【令和４年度　収益事業報告】

１、重要課題・課題に対する取り組み

重点課題の明確化

①　事業所体制計画

令和４年度の取り組み

不動産賃貸業において安定した運営状況である、収支も計画どおりであり継続する。

新規事業計画についてはコロナ感染症の影響を考慮し試作研究を進める。

②　利用者・ご家族計画

令和４年度の取り組み

利用者様ご家族様が関り利用及び就労につながる事業を研究する。

②　　職員体制計画

令和４年度の取り組み

運営状況は兼務体制であり、今後も必要な人材発掘を務める。

運営上専従体制は難しいため、法人本部との兼務体制で進める。

２、成果と課題

①　不動産賃貸業についてはコロナ感染症の影響を鑑みながら安定的な運営を行う。

②　新規事業計画は社会情勢と地域ニーズを考慮しながら進める。

【令和４年度　不動産賃貸業事業報告】

１、事業概要

①　不動産賃貸業

②　新規事業の研究と創設

２、事業状況

①　不動産賃貸業　契約の締結

１、契約法人　医療法人財団　暁

２、契約期間　５０年間の建物賃貸借契約

平成３０年４月１日より令和５０年３月３１日まで

３、賃借場所　社会福祉法人六三四　小平市仲町３６４番地１　敷地内

４、契約料金　賃貸物件　70,000 円／月額

駐車場　35,000 円／月額

②　新規事業の研究

１、移動販売事業について研究を行う。

３、重点課題・課題に対する取り組み

重点課題の明確化

①　事業の安定性の確保、不動産賃貸業の入居事業所の維持。

・令和４年度の取り組み

継続的にコロナ感染症拡大防止の徹底に取り組み、入居事業所との連携及び距離を保った交流と情報収集を継続。建物が安全に使用できるようメンテナンス等の実施。

②　収益事業として、新規事業の研究。

・令和４年度取り組み

ウィズコロナ・アフターコロナの社会を鑑み、地域ニーズと事業に必要な人材等情報収集と分析の研究を継続。

４、成果と課題

①　入居事業所の経営及びコロナ感染症の影響について情報収集と分析を行い動向の把握、協調体制の維持継続。

建物を長期使用していく上で安全のための研究の継続。

②　ウィズコロナ・アフターコロナを見据え実現可能な事業として、地域ニーズの分析を進める。

５、SWOT 分析

Strength：強み ①社会福祉法人として、公益性と社会的信用 ②不動産賃貸業の、安定収益が継続できる	Weakness：弱み ①兼務体制による専門職の不在である ②新規事業には職種制限がある
Opportunity：チャンスとなる外部要因(機会) ①地域社会へ積極的な繋がりを持てる ②入居事業所と業務連携をしている	Threat：脅威 ①異業種からの参入の可能性がある ②建物の老朽化による、物件としての魅力価値の低下
S/O　　強みと機会 ①地域と公益性のニーズをくみ取った事業を行うことができる	W/O　　弱みと機会 ①地域人材の活用と求職機会を提供できる
S/T　　強みと脅威 ①地域社会と福祉連携をしていける	W/T　　弱みと脅威 ①副次的な事業の為、予算と人員がかぎられている

６、SWOT 分析によるモニタリング報告書

クロス分析

S/O　　強みと機会

①・・・・・公益性のある医療機関と訪問リハビリ事業所の入居事業所との協調により地域ニーズに応えた。

S/T　　強みと脅威

①・・・・・地域連携の橋渡しを実施する。

W/O　　弱みと機会

①・・・・・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域交流を通じての人材探しは未実施であった。

W/T　　弱みと脅威

①・・・・・予算、人員ともに限定的であり、優先順位決めが必要である。